

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第2・3学年上 音楽科 学習指導案

青森県八戸市立白山台中学校
講師 長者久保 希史子

題材名 歌詞に込められた思いや曲の形式を生かして歌おう（3時間）

題材のねらい 『浜辺の歌』『早春賦』『花の街』を教材とする。それぞれの歌詞の内容から想起される作詞者の思いや情景とリズム、旋律、強弱、形式との関わりを感じ取り、それぞれの曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う。

本時のねらい 拍子の違い、形式や曲の構成を感じ取り、それぞれの曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

指導時期 10月中旬～11月上旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

教材の3曲は、我が国の自然や四季の美しさ、希望を願う心情を美しい言葉で表し、旋律と共にそのよさや美しさを感じ取ることができる共通歌唱教材であるが、文語調や夢と希望を抽象的に表現した歌詞は生徒にはなじみにくく、表現の工夫が深まりにくい。「指導者用デジタル教材」の楽譜ページ、動画、縦書き詞、朗読等の活用は、それらの課題を解決することができる。

まず、風景に演奏を重ねた動画では情景を、紙面の「A Message For You」からは作り手の思いを感じ取り共有することができ、曲のもつ背景の一部をすばやく提供してくれる。

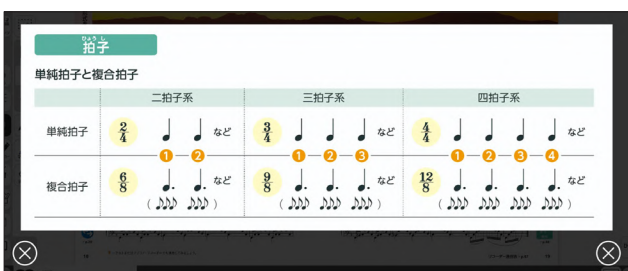
次に、各曲を縦書きの歌詞を見ながら「範唱」を聴いたり歌ったりすることで、読譜を苦手とする生徒の音取りが容易となる。また、「朗読」の活用で日本語のもつ言葉のまとまりや美しさを感じ取ることができる。

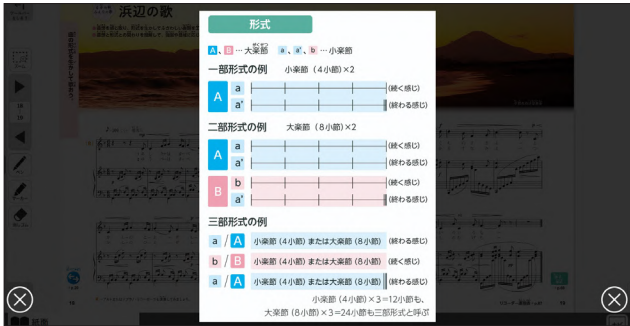
楽譜ページは曲想に係る記号をマークしたり楽典のページとリンクさせ理解したりしながら、表現について考えることができる。工夫したことを記録・保存して繰り返し活用することもできる。

「指導者用デジタル教材」の各ツールの活用により、それぞれの曲が生徒にとって身近なものとなり、歌唱表現をより豊かに工夫する効果が得られる。

本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	 The screenshot shows the digital textbook interface. On the left is a thumbnail of the textbook cover titled '音楽のおくりもの' (Music's Gift). On the right are three blue buttons: '最初のページを開く' (Open the first page), '目次を開く' (Open the table of contents), and '前回の続きを開く' (Open the continuation from the previous page). There is also a red button labeled '指導者用' (For Instructors) and a blue button labeled 'おわる' (End).

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用																				
導入	前時の学習を振り返る。 ●各曲の旋律や強弱、曲想記号など前時の学びを復習する。 単純拍子と複合拍子を知覚・感受する。 ●拍子の違いがもたらす雰囲気や効果について考え共有する。 T：『浜辺の歌』と『早春賦』は八分の六拍子、『花の街』は四分の二拍子で書かれています。それぞれの拍子の違いからどんなことを感じますか。 C：やわらかさとかっちりした感じ。 C：波の行ったり来たりや山の空気の清々しい広がり、強い願いを伝えるという違い。 ●共有したことを基に拍子の役割を理解し、拍ののって歌う。 T：共有した雰囲気を実際に歌って感じてみましょう。	●前時の学習で確認した記号などはマーキングして保存しておき、それを投影するとなおよい。(下は『浜辺の歌』の例)  ●必要に応じて動画の再生も可能。 ●それぞれの曲の拍子をマーカーで色づける。  ●意見が出てきたところで、楽典のページとリンクさせ、拍子の理解につなげる。  <table><tr><th colspan="4">拍子</th></tr><tr><th colspan="4">単純拍子と複合拍子</th></tr><tr><th></th><th>二拍子系</th><th>三拍子系</th><th>四拍子系</th></tr><tr><td>単純拍子</td><td>2/4 1 2</td><td>3/4 1 2 3</td><td>4/4 1 2 3 4</td></tr><tr><td>複合拍子</td><td>6/8 1 2 3 4 5 6</td><td>9/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td><td>12/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12</td></tr></table>	拍子				単純拍子と複合拍子					二拍子系	三拍子系	四拍子系	単純拍子	2/4 1 2	3/4 1 2 3	4/4 1 2 3 4	複合拍子	6/8 1 2 3 4 5 6	9/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9	12/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
	拍子																					
単純拍子と複合拍子																						
	二拍子系	三拍子系	四拍子系																			
単純拍子	2/4 1 2	3/4 1 2 3	4/4 1 2 3 4																			
複合拍子	6/8 1 2 3 4 5 6	9/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9	12/8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12																			
展開	二部形式や曲の構成を知覚・感受する。 ●p.23を活用し『浜辺の歌』と『早春賦』の形式と構成を共有し、山場となる場所について考える。 ●『花の街』の形式や構成、曲の山場について考え、共有する。 T：『花の街』は『浜辺の歌』や『早春賦』と同じ形式？ C：二部形式ではない。それぞれの小節数も違う。 C：何部形式？フレーズのまともりは三つのようだから三部形式？	●p.23 Active!「旋律のまともり」のページを映し、()に追記して、二部形式について理解させる。 																				

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	T : p.23の形式を見てみようか。 あてはまるものはどれかな？ C : ないな。 T : あてはまりそうな形式がないですね。この曲はこれらの形式と違い、自由な形式で作られているのです。 T : それではこの曲の山場はどこになるかな。次に曲にふさわしい表現を考えてもらいますが、そのときに、曲の山場についても話し合って表現を考えてください。	 ● p.24-25の楽譜に戻る。 
	曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。 ● 3曲をそれぞれどのように歌うか考え、自分のワークシートに記入させる。 ● グループで意見交流し、表現についての考えをまとめる。 ● 各グループの考えを全体で共有する。 T : 『花の街』はどこを山場と考えているか、みんなの発表を見てみよう。 「輪になって」のところを山場と考えたグループはその理由を教えてください。 C : 「輪になって」という言葉が2回繰り返されていることと、mfからクレッシェンドしていて音もだんだん高くなっています。次の「はるよはるよ」からはmpなので、「輪になって」のところが山場だと思います。 ● 3曲それぞれの表現について出た意見をまとめる。	● 「学習者用デジタル教材」の各曲のページに、グループの考えを記入し、発表時に映すことも考えられる。 *ここで表現方法について意見が広がりすぎるようならば、楽譜ページや縦書き歌詞を映し、再考する材料とするとい。 ● 生徒から出た意見を、楽譜に色を変えて記入する。
まとめ	創意工夫したことを歌唱表現する。 ● 3曲それぞれに工夫した内容を、実際に歌って確かめる。歌いながら考えたことがあったら、追記してよいことを事前に伝える。 ● 表現することについて感じたことや考えたことを、ワークシートにまとめる。記入後、グループ内で共有する。	● 生徒から出た意見をまとめた各曲の楽譜を映し、それを見ながら歌う。 

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

本題材は3時間で計画している。ここでは、各時間における指導者用デジタル教材活用の効果は次のとおりである。

●第1時

指導者用デジタル教材活用の意図・目的で前述したとおり、「指導者用デジタル教材」を活用することによって、現代に生きる生徒には言葉だけでは理解しにくい我が国の自然や四季の美しさを、視覚と音で感じ取ることができたり、歌詞に込められた作り手の思い「A Message For You」で理解したり共有したりすることができる。

旋律の音取りは、縦書き歌詞と合わせて範唱を再生できる機能を活用することで、読譜の苦手な生徒も音取りがしやすい。また、五・七語のまとめりや日本語のまとめりも理解できる。

○第2時（本時）

各曲の楽譜ページを中心としながら、「Active!」や楽典のページを活用することで形式について考えたり、理解を深めたりすることができる。

表現の工夫については、交流したことを譜面に書いて共有することができる。場合によっては楽譜と縦書き歌詞ページを行ったり来たりしながら、再考したり考えを深めることもできる。記入したことを保存することで、次時の活用も可能となる。

○第3時

第2時で保存した表現の工夫を活用し、前時の学びの振り返りや、まとめの歌唱に役立てることができる。

実技発表をする際は、伴奏を活用することで、指導者も生徒の演奏をしっかりと聴くことができ、評価に活用できる。

今回の題材のように3曲を取り扱う場合、楽譜、歌詞、関連資料、ワークシートと使用するものが多くなり、生徒自身が学習のねらいを逸脱してしまうこともある。指導者もあれも見せたい、これも教えたいとやるが多くなり、当初の指導の目的から外れてしまいかねない。そして、危惧することは「音」から離れて曲の知識だけが残ることである。

「指導者用デジタル教材」を活用すると、それぞれの曲の楽譜、歌詞、関連資料が行き来しやすいように配置されているので、常に「音」で確認しながら学習を進めることができ、最終的には「音」に返って学習をまとめることができる。情報をコンパクトに認知し、自分たちの考えを整理・共有しながら音を伴って学習を進めることで、曲への理解や創意工夫する手がかりをつかむことができ、意欲的に表現に取り組むものとする。